

製品名	稼動環境	主要機能	最新レベル
DTRII	Windows 10 (x86,x64) Windows 11 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022	・文字コード変換 ・外字変換 ・データ型変換 ・レコード編集 ・ファイル形式変換 ・コマンド形式の実行 ・画面操作の実行 ・COBOL登録集インポート ・APIの提供 ・データベースとの連携 ・ディレクトリ変換	5R20T
DTR/Linux	RedHat Enterprise Linux 7(x64) RedHat Enterprise Linux 8(x64) RedHat Enterprise Linux 9(x64) Amazon Linux 2 Amazon Linux 2023 Oracle Linux 8	・文字コード変換 ・外字変換 ・データ型変換 ・レコード編集 ・ファイル形式変換 ・コマンド形式の実行 ・APIの提供	5R20T
U-DTR	Solaris 10 Solaris 11	DTR/Linuxと同様	5R19S
DTR/JHP	HP-UX 11iv3	DTR/Linuxと同様	5R19S
DTR/J	JDK1.6 JDK1.7 JDK1.8 JDK1.11	・文字コード変換 ・外字変換 ・データ型変換 ・APIの提供 （String class での透過的な変換） ・マルチスレッド対応 ・DTRII 互換コマンド ・データベースとの連携 ・ディレクトリ変換	1R8H

DTRに関するお問い合わせ

BIPROGY 株式会社
プロダクトマネジメント部 DTR担当
〒135-8560 東京都江東区豊洲1-1-1

■ホームページ
<https://pr.biprogy.com/solution/tec/software/dtr/>

- 本パンフレットの記載は改良のため予告なしに変更することがあります。
- 記載の商品名およびシステム名等は弊社の商標または商品登録です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の登録商標です。
- Solaris は、Oracle Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、米国 Red Hat, Inc. およびその子会社の登録商標です。
- Java は、Oracle Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

データ変換ソフトウェア
DTR



データ変換とは

データ変換とは、プラットフォームやソフトウェアによって異なるデータ形式を相互に変換することです。データ変換の例として、文字コード変換、ファイル形式変換、ファイル媒体変換などがあります。

外字とは

システムで使用できる文字セットには備えられていない文字を指します。ユーザが独自に文字セットに追加・作成できます。外字の追加・作成を行わないと別システムでは表示できた文字を表示することができません。

特徴① 様々な漢字コードを相互変換

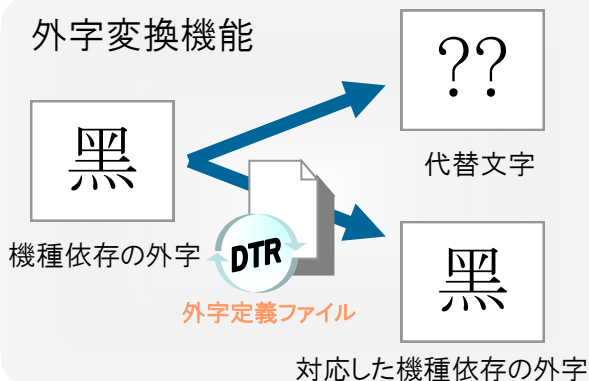
サポートする漢字コード

- ・LETS-J
- ・JIS
- ・Unicode ※
- ・シフトJIS
- ・EUC漢字
- ・JBIS
- ・日立漢字
- ・IBM漢字
- ・富士通漢字
- ・NEC漢字

※Unicode: UTF-8、UTF-16BE、UTF-16LEの3種

DTRを使うと、シフトJISなどのオープン系の漢字コードはもちろんのこと、国内各社のメインフレーム独自の漢字コードも相互変換できます。文字コードはASCII、EUC、EBCDICを選択します。

外字変換機能



ユーザが変換対応を定義することで外字を指定文字に変換することができます。この機能を使うと異機種間での外字の扱いを共通化することができます。

特徴② 様々なファイル形式を相互変換

サポートするファイル形式

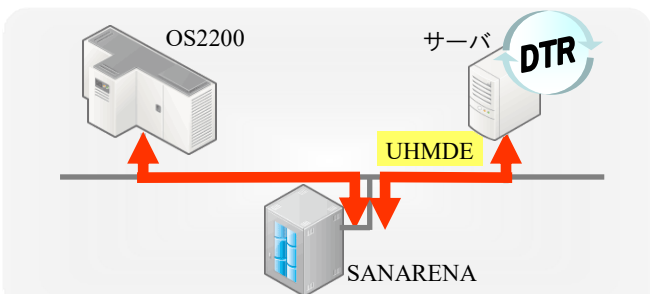
■ディスク媒体

- ・テキストファイル
- ・固定長形式COBOL順編成ファイル
- ・可変長形式ディスクファイル
- ・csv形式
- ・XML
- ・JSON
- ・データベース

■磁気テープ媒体

- ・固定長テープファイル
- ・IBM形式の可変長テープファイル
- ・情報交換形式の可変長テープファイル
- ・不定形式テープファイル

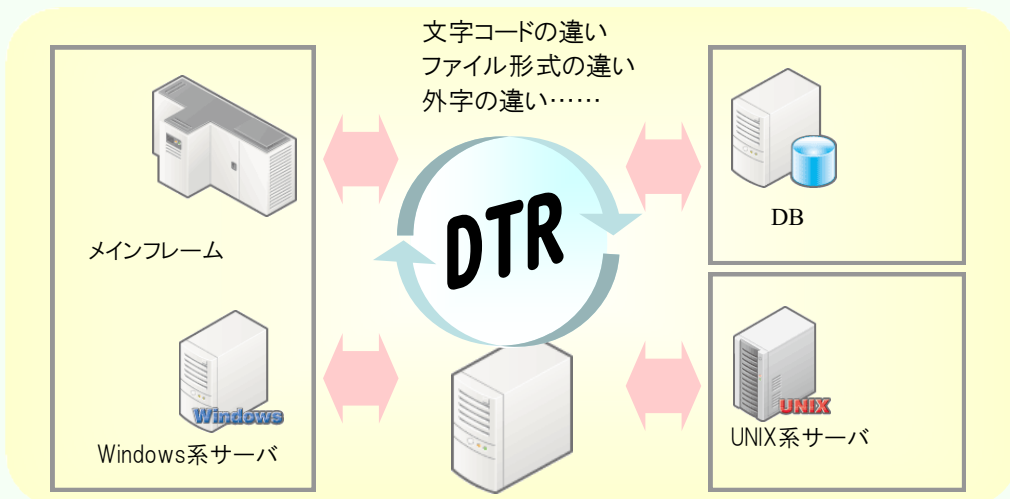
COBOLプログラムで定義・作成したCOBOL順編成ファイル、テキストファイルなどのディスク媒体を相互変換します。これらは磁気テープ媒体とも相互変換することができるので、各社メインフレーム間でのデータ交換ユーティリティとしても利用できます。



また、SANARENAシリーズ・ディスク装置上のPCIOS順編成ファイルの入出力も可能です。(UHMDE連携)サーバ上のDTRからOS2200の9ビットデータの読み書きができるようになります。

DTRとは・・・

DTRは高機能データ変換ソフトウェアです。
システム間で異なるデータ形式を強力に相互変換します。

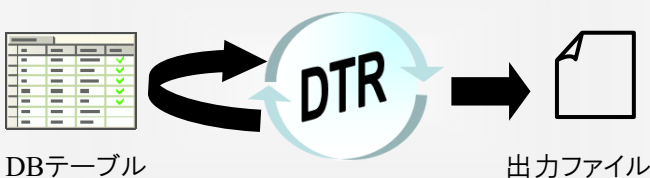


- ・ DTRを用いてデータ変換すると、
- ・ ホストからオープンへのスムーズな移行
- ・ データ形式の異なるシステム同士の円滑な連携が可能になります。

特徴③ データベースとの連携

DTRII では入出力先にODBC準拠のデータベース(以降はDBと記述)を指定することができ、DBの任意のテーブル・ビューからデータを 取得すること(DB入力)や任意のテーブルに対してデータを追加すること(DB出力)ができます。
※DBとの連携機能はWindows版のみの機能です。

DB入力



DB出力



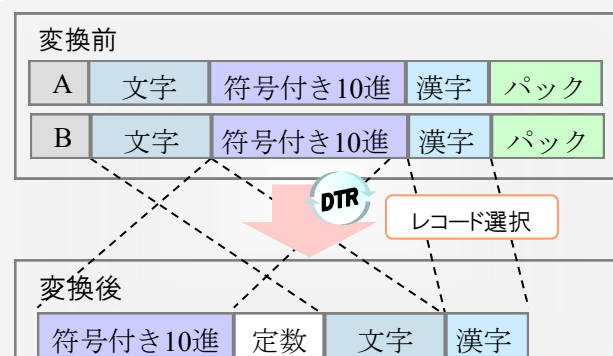
特徴④ レコードレイアウト編集が自由自在

サポートする項目タイプ

文字型	文字項目、漢字項目、文字漢字混合項目
数値型	符号付き10進数、符号付き10進数(先頭)、符号付き10進数(末尾) 符号付き10進数(3桁カンマ区切り)、パック形式(符号付き・なし) バイナリ(符号付き・なし)、ビット数値項目(符号付き・なし)
その他	16進数表現、2進数表現、型なし、出力スキップ、日付項目、ハッシュ値項目

多様なレコードレイアウト変換に対応するため、多くの項目タイプを提供しています。

項目タイプを組み合わせるとレコードレイアウトを自由自在に編集・加工できます。レコードの項目順序の入れ替え、レコードの選択、定数の挿入、順序番号の挿入、項目の削除をノンプログラミングで行うことができます。



DTRの製品ラインアップ

DTRは以下のラインアップを揃えており、多様なプラットフォームに対応しています。

- ・DTRII: Windows版
- ・DTR/Linux: RHEL版, Amazon Linux版, Oracle Linux版
- ・U-DTR: Solaris版
- ・DTR/JHP: HP-UX版

DTR/Jの特長

他DTR製品がバッチ処理での使用に適しているのに対し、DTR/Jはリアルタイム処理での使用に適しています。マルチスレッドに対応しており、Javaのプログラムから使用できる変換APIを提供しています。

ユーザインタフェース

DTRは以下のインタフェースを提供しています。

- ・コマンド実行
- ・画面実行
- ・C言語のAPI

※画面実行はDTRIIのみ

※DTR/JはJavaのAPIのみ

DTRパラメタ作成支援 (COBOLインポート)

DTRIIのGUIでは、COBOL登録集をインポートすることで、COBOLデータ定義に対応したDTRパラメタを自動生成することができます。